

## ハチドリの一滴

校長 荻野 秀和

先日の全校集会で子どもたちに伝えたお話です。

ハチドリは世界最小の鳥です。小さいもので全長は6cm、体重は2gしかありません。生息地は中南米から南アメリカです。そのはばたきは1秒間に50回以上といわれ、飛んでいるときは、ブーンと蜂が飛ぶような音を出します。それでハチドリという名前がつきました。食べ物は主に植物の花の蜜です。蝶のように長いくちばしを使って蜜を吸います。そんなハチドリですが、南アメリカには「ハチドリの一滴」という昔話があります。

ある日、森が火事になりました。多くの動物が逃げ出す中、ハチドリは近くの川で、小さなくちばしに水を含んで、火にかけていました。ハチドリは何度も何度も繰り返し火に水をかけていました。他の動物は、そんな小さなくちばしで火が消えるはずがないと笑いました。しかし、ハチドリは言いました。「森が燃えていることに、私ができるのは小さなくちばしで水をかけることです。」

子どもたちには、ハチドリのように今できることに全力で頑張ってもらいたいと思います。行動する前に、決して無理だとあきらめずに取り組むことが大切です。これから持久走記録会があります。（この便りがお手元に届く頃には終わっているでしょう。）

子どもたちは体育の時間や20分休みにグラウンドを走り練習を重ねています。その努力

が本番の記録会に発揮されることを期待しています。

持久走記録会だけでなく、様々な場面で、挑戦することが求められます。すぐには成果が出ないかもしれませんが、必ずその努力が報われる日がきます。子どもたちには小さな努力の積み重ねを信じているような物事に取り組んでほしいと思います。

